

令和7年度第4回学校運営協議会 議事録

- 1 日 時 令和8年2月4日（水）午後1時30分から3時30分まで
- 2 会 場 浜松商業高等学校 応接室
- 3 出席者 （委員）岡本 雅康 氏、佐原 司郎 氏、松山 佳典 氏、鈴木 和之 氏
（学校）井口 裕史 校長、袴田 康行 副校長、米本 敦 教頭、
後藤 一弘 事務長、岩下 大祐 教諭、寺田 玲子 教諭、
寺田 久美子 教諭

4 報告・協議内容【発言要旨】＜ ＞は発言者

(1) 最近の本校状況＜井口校長＞

学校関係者評価：今年度の重点目標は概ね上向いており、委員の意見により改善された点も多いが、依然として注力が必要な箇所もある。

進路指導の変遷：優秀な生徒の力を伸ばすため、大学進学にも対応できる教育課程の変更を検討中。就職希望だった生徒が進学へ転じるなど、入学後の意識変化にも柔軟に対応したい。

(2) 進路の状況＜寺田玲子進路課長＞

3年生の進路状況：就職希望者は民間企業100%内定。公務員は15名中13名が合格。進学面では、従来の指定校推薦だけでなく、資格や小論文を活かした総合型・公募制選抜に挑戦する生徒が増えている。

課題と対策：成績優秀な生徒でも1社目で不合格となる「ミスマッチ」があった。生徒・教員双方の企業研究不足を反省し、次年度の指導に活かす。

(3) 商業科の状況＜寺田久美子商業科主任＞

資格取得状況：実用英語技能検定（英検）準1級に1名合格（近年で初）。日商簿記検定1級にも1名合格するなど、高度な資格への挑戦が成果を上げている。

探究活動：「浜南探究コンソーシアム」を通じ、外部のフォーラムやフェスタで多数発表。生徒が自信を深める機会となった。

簿記指導：日商簿記3級の合格率70%以上を目指し、不合格者へのフォローとしてCBT（コンピュータ試験）の活用を整備した。

(4) 新聞記事による近況報告＜米本教頭＞

部活動の活躍：水泳部のインターハイ制覇・アジア選手権入賞、吹奏楽部の活躍、実務競技会（ワープロ・簿記等）での29連覇達成、調査研究部による「浜名湖あおさ餃子」共同開発など、多方面での活躍を報告。地域貢献活動として、応援団部による施設訪問・活動が評価され「善行賞」を受賞した。

(5) 教務に関する状況<岩下教務主任>

基礎学力向上：ベネッセの「基礎力診断テスト」に加え、今年度からリクルートの「スタディサプリ」と「到達度テスト」を導入。家庭学習と連動した学習サイクルの定着を図っている。

評価分析：テスト結果の分析を通じて、改善の材料とする。県内外の他校との立ち位置を把握し、次年度は記述式のテストの導入を検討。

5 学校関係者評価 <>は発言委員

<委員>

簿記検定：合格率だけでなく、受検率（分母）も重要。商業高校として全員が資格を持って卒業できるよう、受検の活性化を促してほしい。

学習モチベーション：普通科高校と同じ土俵で競う外部テストは、生徒が自分の実力を客観視し、一般入試も視野に入れた学習に励む良い機会になる。

健康管理：歯科や眼科の受診勧告に対する治療完了率が低い。部活動を優先しがちだが、将来のために健康管理の重要性を説くべきだ。

読書習慣：朝読書の徹底により、読書習慣が定着した生徒が約7割に達したことは素晴らしい成果である。

<委員>

授業評価：授業満足度92%は非常に高い数字であり、文武両道の校風が表れている。

専門性：驚くほど専門的で実践的な内容を教えており、社会で役立つ教育がなされている。

SNS問題：不適切な交流（誹謗中傷、無断撮影・拡散）の把握件数は6件だが、潜在的なトラブルはもっと多いはず。外部講師による講演など、定期的な啓発を求める。

自転車ヘルメット：努力義務だが、生徒会による啓発や、魅力的なデザインの検討など、生徒が自主的に被りたくなる工夫が必要。

<委員>

進路満足度：「適切な進路選択ができた」という回答が89%だった点について、残りの11%の生徒がなぜ満足していないのか（親との意見不一致など）を詳細に分析することが、今後の指導改善に繋がる。

<委員>

交通安全：夜間の自転車の並走や無灯火、黒っぽい服装による視認性の低さが懸念される。自らの身を守る指導を徹底してほしい。

6 その他

次年度委員について、交代案について提案され、了承された。